中日新聞（2017年12月20日付）
掲載記事は中日新聞社の許諾を得て転載しています。

カラフルなクリスマスカードを作る生徒たち＝美浜町の日本福祉大付属高で

Xマスカード 被災地へ

日福大付高生「笑顔見たい」

東日本大震災で被災した子どもたちを励ましそうと、日本福祉大付属高（美浜町）の生徒がクリスマスカード作りを進めている。四年目の取り組みで、復興が思うように進まない中、子どもたちの笑顔のために続けている。

作業は国際協力部の一～三年生二十人が十月から開始。ピンクや緑などの色画用紙に、雪だるまやトナカイの絵を描いたり、折り紙で作ったリボンを貼ったりと丁寧に仕上げている。「くりすますのおねがいごとがかないますように」といったメッセージも添えた。

同部は三年前から、岩手県陸前高田市竹駒地区の子どもたちにカードを送っている。初めの二年は現地で絵本の読み聞かせボランティアをする女性を通じて送っていたが、昨年十二月は二年の岸愛梨部長（一七）ら五人と、顧問の榊原智穂教諭（四四）が現地を訪問。竹駒保育園の園児たちに直接手渡し、一緒にゲームなどを楽しんだ。

岸部長は「今でも仮設住宅に住んでいる人がいると聞いて衝撃を受けた」という。一方で「子どもたちから元気をもらった。カードを見せ合って喜んでいる笑顔をまた見たいと思ってカードを作った」と力を込めた。榊原教諭は「現地では支援が減っていると聞いたが、これからも活動を続けていきたい」と話した。カードは二十日、竹駒保育園に向けて発送する予定だ。

同部はフィリピンで環境保全に携わるNPO法人を通じて、ネグロス島の託児施設にいる子どもたちにもクリスマスカード六十枚を送った。

（大槻宮子）

（許諾番号:20180117-20518）